

ICA 2010

Sydney • Australia • August 23-27

2010年8月23日～27日にオーストラリアのシドニーで開催された
20th International Congress on Acoustics (ICA2010)におきまして
M2の竹浩史が口頭発表をしてきました。
簡単にではありますが、ここに報告いたします。

~ICAについて~

学会名にAcousticsと入っていることから連想されるように、音響に関する3年に一度開催される学会です。

音響・振動の工学的なセッションをはじめ心理学的な音に関するセッションまで、幅広く取り扱われている規模の大きな学会です。

ちなみに私は、『Structural acoustics and vibration』というセッションで発表しました。

最も多かったセッションは、『Architectural acoustics』で11セッション。次に多かったのが私が発表したセッションで計7セッションでした。

出国・いざオーストラリアへ！

無事に搭乗手続きを済ませ、三上先生より一日出発の早い
私は不安だらけでシドニーへ・・・(汗)

今回利用した航空会社はカンタス航空(写真左).

機内食, サービスともまあまあ? だったと思います.

寝心地はというとエコノミーということもあり, 腰にきました・・・orz

Departures		出发航班	출발편	
定刻 TIME	変更時刻 WILL DEP.	行先/経由地 TO/VIA	航空会社 AIRLINE	便名 FLIGHT NO.
19:40		HONOLULU	VIETNAM AIRLINES	VN6924
19:40		HONOLULU	JALWAYS	JO76
19:50	20:30	HONOLULU	CHINA AIRLINES	CI18
20:00		SYDNEY	JALWAYS	JO771
20:25		GOLD COAST	JETSTAR	JQ12
20:30		SYDNEY	QANTAS	QF22
20:40		PERTH	QANTAS	QF80
21:00		KONA	JALWAYS	JO70
21:00		HONOLULU	JALWAYS	JO70



～シドニー空港到着～

出国審査を無事に終え，ここからが本番！頼れるのは自分のみ！！
ホテルを目指します．ホテル最寄駅はMuseum station.

ホテルの目の前まで連れて行ってくれる乗り合いタクシーがあるとの情報を地球の歩き方で下調べしていましたが，Where is the ticket URIBA!?!と心の中で叫びつつ，結局見つけられずバスへ乗ることに(汗)
向こうのバスは日本のように「次は～」というアナウンスがなく，右も左もわからない駅で降ろされてしまう始末・・・泣





結局バスはあきらめ、結局地下鉄を使うことに..
窓口で切符を買い、なんとか無事に駅に到着！
その後、ホテルにも無事に到着。
着いただけでも嬉しいものでした。
予定のチェックインより早かったにも関わらず、
幸運にも部屋に入ることができました☆



～シドニー市内～

渡豪初日，会場下見を兼ねてシドニー市内を散策～
シドニー市内は，地図一枚あれば歩いてほぼどこへでも行けます。



市街地ほぼ中央に位置するハイド・パーク
かなり広い公園です。



Hyde・パークから一歩先を見渡すと
 セント・メアリーズ大聖堂～

中に入ると日曜ということもあり、大勢のクリシタンが！
 写真厳禁でしたがパイプオルガンの演奏，途中よくテレビで目にするキリストに対しての
 お祈りも行われ，全員が当たり前のようにする中，私はしどろもどろ・・・
 かわりに二礼二拍一礼しようかと思いました・・・(笑)
 嘘です・・・

⇒シドニーのシンボルのひとつ
シドニータワー

市内を走るスモール・モノレール



Queen Victoria Building

残念ながら一部、改修中・・・



Daring Harbor

写真に見える橋の左手には・・・

このように富裕層が所有してるのであろうクルーザーが！
夏になると、この辺一帯がクルーザーで溢れかえるそうです。
そして写真奥の建物に目を向けると・・・



ICA会場発見！

こちらが、今回発表を行ったSydney Convention Centre！
会場の場所が確認できたので、お次はみなさんご存知の・・



~Opera house~

オペラハウスから左に目を向けると・・・



Harbour Bridge

実はこのハーバーブリッジ、登れるんです！料金はA\$179~
帰国後A\$150の残金に気付いた私... 登っていればと後悔しています(泣)



ICA ~Opening~

Welcome from
ICA 2010 Committee

Marion Burgess
ICA 2010 Chair

ICA 2010
Sydney - Australia - August 23-27



学会オープニング前にレジストレーションがありました。英語が早すぎて聞き取れず少し手間取りました。しかし、これはこれで良い経験です。



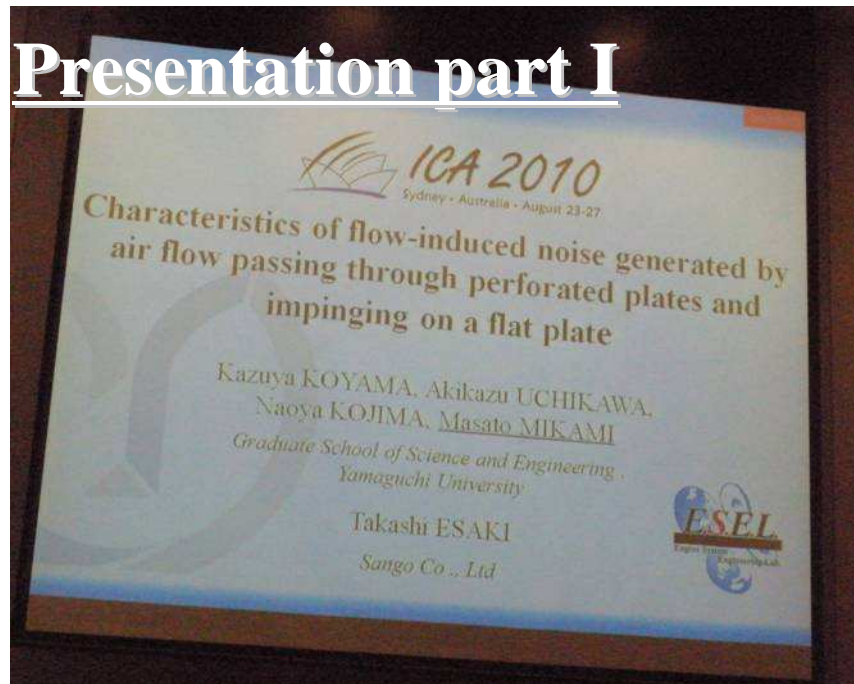
Welcome to Country

こちらはオープニング・セレモニーの様相。
先住民族アボリジニーの伝統舞踊は圧巻
でした。

それ以上に驚いたのは、写真に中央に写る
煙の出ている壺、燃烧系の学会でもないにも
かかわらずセレモニー途中に発火しました(笑)

学会では様々なセッションに足を運び、内容もちろんですが英語の早さに
驚きを隠せませんでした。

Presentation part I



今回のICAでは、気流音のテーマで三上先生の発表がありました。
このセッション、実に3つもの講演がキャンセル...
僕は、三上先生の発表を聞くのが初めてだったのですが、さすが国際経験豊かな三上先生！
終始落ち着きがあり質疑応答も難無くこなし、素晴らしいの一言に尽きます。
そんな先生も、『僕も最初は質疑応答で全く答えられなかった...』と仰っていました。
経験に経験を重ねることが重要だということですね。

⇒発表中の三上先生
流暢な英語を坦々と話している
様子が伝わりますか？



渡豪中，三上先生の提案でwelcome socialで知り合った東工大の学生のみなさんと一緒に，シドニータワーから市街地を一望できるバー・レストランへ行きました。

ちなみにこのレストラン，床が回ります！

ロケーション，食事とともに最高でした。三上先生，ご馳走様です！





こちらは、笑顔が素敵なアンソニー。
とってもフレンドリーなウェイターでした。
シドニーへまた行く機会があったら、是非
もう一度お会いしたいですね。
ちなみに月を見て吠えてました(笑)

写真下はアンソニーとの記念撮影～

この写真、実は発表前夜の一枚です。このときはまだ笑顔に
余裕見えますね。



Presentation part II

本番当日. 発表は午後ラストのセッションということで, 午前中はスライドと原稿を入念にチェック.

写真はセッション開始前のチェアにあいさつしにいったときの一幕です. 交わした内容は以下の通り(日本語訳).

私:「次セッション3番目に発表する竹です. よろしくお願ひします.」

女性チェア:「あ〜竹さんね, こちらこそよろしく.」

私:「今回が海外発表初めてで, かなり緊張しています. . .」

男性チェア:「大丈夫! 気楽にやりなよ!!」

私:「ありがとうございます. ベストを尽くします.」

内心, 気楽にできるわけない! とつぶやいた私でした.

↓セッション開始直前.

口は笑っていますが,
顔は完全に引きつっています(笑)



そして、ついに発表開始です。
満席ではありませんでしたが、結構な傍聴者がいました！



発表は個人練習に励んだ効果もあり問題なく終わりました。
ここからが、本題のディスカッションです。
質問は2~3コしましたが、一つ目は質問者のジェスチャーもあり内容を理解できました。
内容をうまく伝えられませんでした。出てくるセンテンスを口にし、何とか相手も頷いてくれました。
が、問題は次の質問でした...俗に言う、ネイティブの方からでした。



キーワードは聞き取れているものの、相手の意図する内容を理解できぬまま結局検討違いなことを答えてしまい、時間がきて終わってしまいました・・・

席に戻り、三上先生から質問の内容を告げられた私。

聞き取れていたキーワードから組み合わせられる無次元数についてのことでした。

ああ、それか・・・と思いセッション終了後、質問者に直接答えられなかったお詫びと質問に対する見解を伝え、「OK」との返答をいただきました。

やはり、今回の経験を通してリスニング力が重要と再認識しました。



オーストラリアの大自然 ~Blue mountains~



オーストラリアの自然に一つでも触れるため、
渡豪中、時間の合間を縫ってブルー・マウンテンズへ..
シドニーからブルー・マウンテンズへは、最寄駅であるカットウンバ駅を目指すと行けます。



～移動途中、列車の中からの一枚～



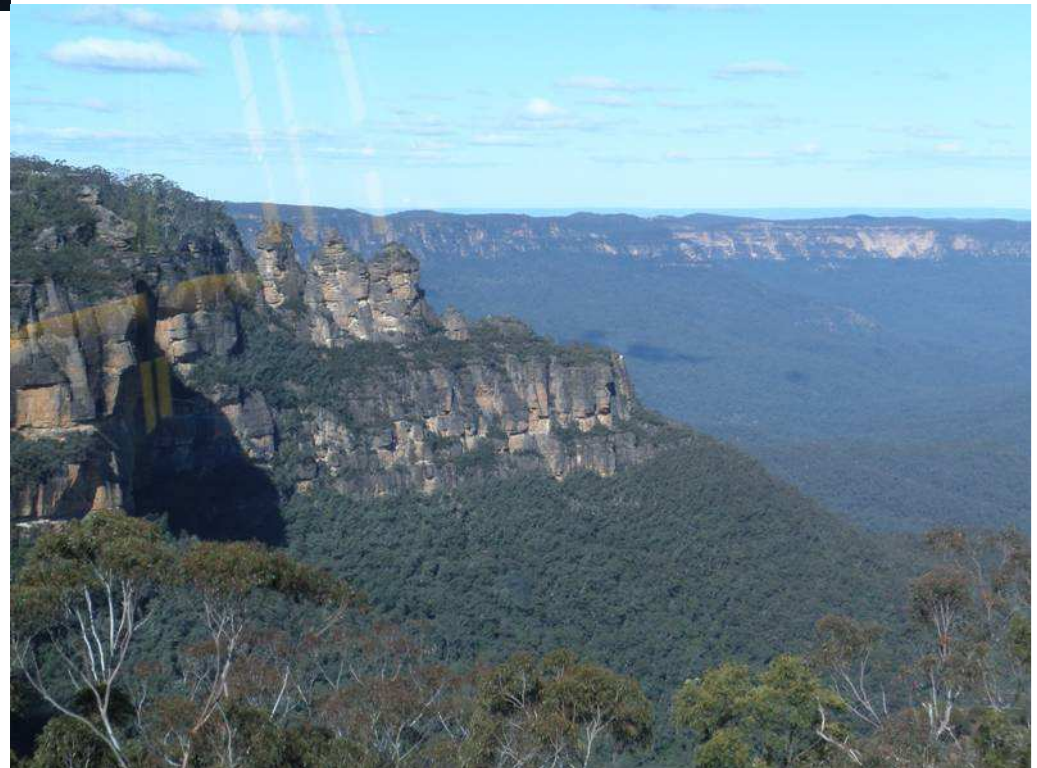
ブルー・マウンテンズは、カトゥンバ駅から写真左
アップダウンのある坂道を数十分歩くと着きます。
写真右は、着いた先でのお土産屋にて東工大の
波さんとの一枚～。





写真左はジャミソンバレーをバックに
南京航空航天大学の胡先生との一枚。
写真下は有名なスリー・シスターズ。
この写真は展望台からの一枚ですが、
写真からでは言い表しきれないほど
本当に壮大なスケールでした。

⇒森が木々の油分で青く見えるのが
お分かりいただけますか？
これが、ブルー・マウンテンズと呼ばれる
理由です。



最後に...

海外発表という大変貴重な機会を与えてくださった三上先生，瀬尾先生，本当にありがとうございました。また，発表練習，質疑応答練習に協力してくださったD2の宮本さんはじめ，研究室のメンバーにこの場を借りてお礼申し上げます。海外発表は絶対良い経験になると先輩方が仰っていた通り，準備は大変でしたがとても良い経験になりました。

僕自身，この海外発表は山口大学に入学してから最大の挑戦だったように思います。今回の経験で，英語力をもっと伸ばさなくてはならないと痛感するとともに，学会以外における経験も大変勉強になりました。

Night view of daring harbor

近年、日本の数多くの企業がグローバル化に向けて動き始めています。すなわち、英語を話せることがアドバンテージではなく、話せて当然という時代が迫ってきているということです。

今後、研究室で海外発表に挑戦したいと考えている人、そうでない人も、このような機会を是非活用してください。

自分を成長させる着火剤を植えつけることができたと必ず確信できます。着火させることができるかどうかは、その先の自分次第かもしれませんが挑戦せずして何も生まれません。

研究室の環境を有効活用し、留学生と積極的にコミュニケーションを図ることからでもよし、好きなハリウッド映画で耳を慣らすことからでもよし。

まずは日常的に英語を楽しみましょう

そうすれば、自然と活路は見出せると思います。

That's all! Good luck!